

いのち
生命の海から

スタッフ 小長谷 遥香

奇妙な名前

春先に、市内の方からたくさんの植物の種をいただきました。その中に変わった名前前の種を発見。小さな黒い粒がパラパラと入っているそのケースに書かれていた名前は「ママコノシリヌグイ」。漢字で書くと「継子の尻拭い」となります。茎にはトゲが付いているので、おとぎ話の意地悪な継母が「あんたのお尻をこれで拭いてやるわよ」と言っている様子が目に浮かびます。私はなんだかムツとしてしまいました。なぜなら、この植物の花は、ピンク色でとてもかわいらしかったですから…。

生き物の名前には他にも面白いものがたくさんあります。例えば、言いつらい名前の「スカシカシパン」。名前だけ見ると生き物かどうかも分かりませんが、れっきとしたウニの1種です。

当館の人気者「アノマロカリス」



ピンクの小さな花が集まって咲いています。(西田川沿いで撮影)



名前の由来になった茎のトゲ。

も、直訳すると「奇妙なエビ」という意味になります。エビに似ているのに口もお尻も無かったので、そのように名づけられました。それにしても「奇妙」とはストレートな表現です。現在の復元図を見れば、エビだと思われていた部分が実は触手の一部であることが分かります。当館の展示室でも、そのエビっぽい部分を見ることが出来ますよ。

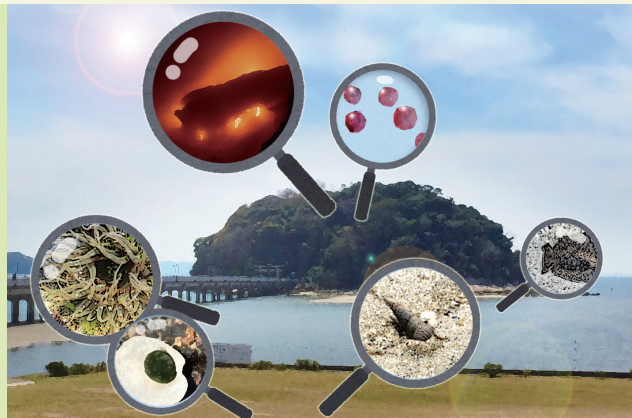
生き物の名前の由来は、調べてみると面白く、調べることで愛着もわきます。私にとって「ママコノシリヌグイ」は名前の恐ろしさに反して、とても愛しい存在になりました。

夏の企画展
竹島からはじめる地球のれきしのあるきかた

入場無料

身近な自然には、地球の46億年の歴史をひもとくヒントが隠れています。近くの海や川、近所の公園や庭先で見つけることのできる、「億年」につながるステキな宝物を紹介します。

とき 7月18日(土)～11月23日(祝)
ところ 3階科学ひろば



ヒトコマトリビア

当館には鉄に関する標本が2種類展示されています。1つは綺状鉄鉱層^{しまじょうてつこうそう}。酸素と鉄分が結びついてできた「さび」が海底に積もってできたもので、現代に生きる我々はここから鉄を取り出しています。

もう1つはナンタン隕石。宇宙からやってきた鉄の塊です。現代とは違い、人類が歴史上最初に作った鉄の道具は、こうした鉄隕石を使ったものでした。そのころの鉄は黄金より珍しかったようですよ。